

## 研修報告書No. 8

所 属： 県外大学病院研修医

研修先： 医療法人聖真会 渭南病院

特定医療法人長生会 大井田病院

四万十町国民健康保険 十和診療所

宿毛市立 沖の島へき地診療所

土佐清水市渭南病院、宿毛市大井田病院、四万十町十和診療所、沖の島診療所といった幡多地区で10月の1ヶ月間研修させていただきました。私は関東の出身で東京・神奈川の大学病院で研修しています。四国は初めて訪れる地であり不安と楽しみが混在した気持ちで研修を開始しました。

渭南病院では訪問診療や外来などを経験しました。大学病院での研修では入院中の患者さんの姿しか見ることがありません。今回、自宅で闘病している末期癌の患者さんの姿を拝見しました。在宅医療のメリットや必要性は様々な所で耳にし、理解していたつもりでした。しかし、実際に在宅医療の現場を見ると入院中には見せないようなリラックスした表情の患者さんがいました。その様子を見ていると在宅医療という選択肢が自分の中で大きくなりました。また、介護保険などの在宅医療を支える制度がどのように利用されているかも知ることができました。外来では虫刺症や漁での外傷などの症例を経験しました。また、マダニによる重症熱性血小板減少症候群についてもお話を聞き、地域の特性を実感しました。

十和診療所では訪問リハビリや外来見学をしました。訪問リハビリでは昔ながらの日本家屋で五右衛門風呂が残されている家を訪ねました。そのような環境でも介護保険で自宅改修を行い生活している患者さんの姿を見ることができ、介護保険の有用性を垣間見ました。

大井田病院では訪問看護ステーション、特別養護老人ホーム、地域包括支援センターなどの介護や福祉に関係する施設の見学や上下部消化管内視鏡など臨床的なことまで幅広く経験できました。本などで訪問看護や地域包括支援事業といった制度があることは知っていましたが、具体的なことは知りませんでした。訪問看護では寝たきりの状態で二人暮らしをしている90歳くらいの夫婦のお宅を訪問しました。衝撃的でしたが、様々な制度を利用して生活が成り立っており、色々と考えさせられました。また、地域の医師向けに開かれた、南海トラフ地震などの災害対策の講習にも参加しました。トリアージに関しての講習会で、初めて聞く内容もあり勉強になりました。その他にも南海トラフ地震への様々な対策がとられており、地域の方々の災害に対する意識の高さを感じました。関東も地震があることが予想されています。トリアージの方法など何回かトレーニングが必要と思われる内容もあり、これを機会に災害医療も学んでいく必要性を感じました。

沖の島診療所では外来や保育園の検診を行いました。沖の島は島民が200人以下の離島で、常在の医師はおらずその他の病院から派遣されていました。休診日もありますが、

血液検査やX線写真だけでなく上部消化管内視鏡など検査は充実しており、日本の医療へのアクセスの良さを実感しました。

1ヶ月間で病院の先生方や職員の方々のお話を沢山聞き、地元の方々と触れ合うことができました。大学病院での研修ではできないことを経験し、得られない知識を身につけることができましたと思います。自分の医師生活の財産になりました。大学での研修は医学的な知識を学ぶことで精一杯ですが、今回の研修では日本の医療制度まで考えさせられました。今後、日本はますます高齢化が進みます。その時、自分は医師として何ができるのか、どのようにその問題に関わっていくかを考えていかなければと感じました。

最後に、今回の研修では休日を利用して川や海で遊び、坂本龍馬や長宗我部元親など高知の歴史に触れ、鰹などおいしい食事をいただくこともできました。お世話になった病院の先生方や職員の方々をはじめ、地元の方には親切にいただき感謝しています。ありがとうございました。